

はじめまして。
日本語教室を探しています。
今月来たばかりで日本語はほとんど
話せませんが、参加出来ますか。

「日本語の勉強をしたい・もっと上手になりたい」など目的はいろいろで、ボランティア希望の人を含め多数の方々が日本語ボランティア教室を探しています。

T N V N は ホーム ページ (<http://www.tnvn.jp>) に「日本語ボランティア教室ガイド」の欄を設けています。都内で活動している171教室を検索し、目的の教室にアクセスし、参加の問い合わせが出来ます。

最近1年間の全問い合わせ数は1,000件を超え、その内訳は学習希望者8割(内国際結婚1割)、ボランティア希望者2割です。問い合わせは和文だけでなく、ローマ字、英文などもあり、それぞれ発信者の気持ちが読み取れます。

その中からいくつかの例(和文のもの、抜粋あり、原文のまま)を紹介します。これらのメールにより多数の方が各地域の日本語教室に参加し、言葉の壁をクリアしようと頑張っています。

日本語を学びたいです

日本語の会話を上手になりたくて、日本人の友達を作りたいです。よろしくお願ひします。

来日して10ヵ月くらい、今は平日はパートをしていますが、日本語はまだ下

手です。日本語を話す機会がないので勉強したいと思います。

台湾から参りました。今は日本語学校に通っていますが、日本語の会話練習がしたいので、参加させていただけますか？

知り合いのフィリピン男性(30歳)で、11月より日本の会社にエンジニアとして転職し、日常生活に必要な会話習得を必要としています、日本語が全く話せません、大丈夫でしょうか？

私は韓国人の女性です。日本が知りたいと思って今ワーキングホリデーで日本に来ました。今も参加しても大丈夫ですか。日本語は下手ですけど、一生懸命にします。

申し込みたいのは家の母ですが、出身は中国で日本語は片言程度です。引越して来たばかりで、地域ふれあいの意味でも申し込めて是非貴教室に通わせていただきたいです。

スウェーデンから来ました。レベルは初級終了するくらいのレベルです。

詳しい情報を

中国から参りました。参加したいのですが、どのようにして入会できますか。活動する場所はどこですか？

日本語教室に参加したいのですが、二歳の娘がいて、その間、難しかったです。子ども同伴可能と聞きました。同伴時に子どもが遊ぶのを見ながら勉強できるのが知りたいです。

4月より中国からの技術者を受け入れました。本人達は、日本語を勉強していますが、まだまだ会話することは困難です。勤務時間以外で日本語を勉強できる場所を探しておりました。日本語学習の内容並びに参加可能であるかをお尋ねしたいです。

増えている国際結婚

ベラルーシ人の妻がいます。彼女は、ロシア語と英語が出来ますが、彼女には友人が少なく、日本語を勉強する機会がほとんどありません。彼女のような外国人に日本語を教えて頂けるものでしょうか。日本語教室の内容を教えて頂きたくメール致します。

私はマレーシアからきました。日本人と結婚しました。日本に4ヶ月住んでいます。でも日本語があまりじょうずではありません。日本語を勉強したいです。クラスにはいますか？

中国出身今配偶者ビザを持ちです。友達もほしいし、綺麗な日本語も話せるようになりたいです。日本語教室で、どのような内容を教えてくださいか、参加させていただけますか。

ボランティアとして参加希望の問い合わせは紙面の都合で割愛します。

(まとめ: 梶村勝利)

ボランティア日本語教室は今!



都内各地からの日本語ボランティアの報告

TNVN第14回総会の後、参加者で活動の報告や現在の問題点などを話し合いました。(敬称略)

石原 弘子

(にほんごの会くれよん・目黒区)

乳幼児とその母親を対象に活動して7年、学習者もボランティアも子ども連れが多く、皆が同じ部屋で勉強しているので、子どもに母語を話さないで日本語ばかり使うお母さんと、母語と日本語の両方を使うお母さんのいることに気づきました。そこで文化庁委嘱事業によって「絵本を使った日本語クラス」を実施し、絵本の研修会、日本語学習支援、翻訳と、三つの活動をしました。研修会の1回目は「子どもに言葉をかけよう」、2回目は「子どもの言葉はどのように発達していくか」、3回目は「絵本の絵に注目」、4回目は「バイリンガルでの紙芝居」。絵本の面白さは子どもたちが言葉だけではなく絵でも理解することです。また翻訳に不向きなものがありました。

1年間の活動の結果、絵本を翻訳して、フェスティバルで発表した外国人のお母さんは自信を得、その子どもは練習していた母親の姿から母語に関心を持ち、母語を話し始めました。児童出版協会は「在日外国人がこれだけ多くなってきている状況から今後絵本の多言語化も検討しなければならない」と言っています。図書館を利用したこの活動から外国人住民の地域社会参加への橋渡しが重要であることにも気がつきました。

斉藤 実

(こんにちはにほんご・練馬区)

絵本を翻訳する場合、不向きなものとはどんな点ですか。

石原 弘子(前述)

日本にしかない場面や、昔話を翻訳するのは難しいです。

梶村 勝利

(早稲田奉仕団日本語ボランティアの会・新宿区)

母語教育について、様々難しさのある中で「母親の言葉に刺激を受け、母語に接する契機を作りだされた」ことは新しいノウハウであり、大きな成果と思います。

石原 弘子(前述)

乳幼児は言葉の蓄積ができていないため、絵本を通して言葉との接点、積み重ねも重要です。日本語、母語の両方で話せるようになるのが良いと思います。

竹内 伸光

(日野国際友好クラブ・日野市)

1992年に6名で発足しました。日本語教室、国際理解講座、課外学習、ニュースレター(年4回発行)、日本語講師養成講座等を行っています。現在15年記念誌の作成を検討中です。

石橋 穠治

(日本語サークル「くりはら」・足立区)

足立区在住外国人は新宿区の次に多く、日本語教室の育成は区の多文化共生施策の一つで、現在14の教室があります。「くりはら」は2005年にスタート、会場は小学校の空き教室ですが、コピー機もないし物も置けません。1~2回で辞める学習者が多く、対応の難しさを感じています。

大久保 澄子

(弥生日本語の会・文京区)

発足後14年目になります。日本語に慣れない外国人が同国人と母語で会話ができるのも日本語教室の役割の一つです。区内9教室の連絡会を作り、後発グループの支援もしています。他グループに、小学校入学前に

日本語を勉強したいと外国人の兄弟が来た時「子ども同士の交わりの中で日本語を勉強した方が良い」と、小学校入学の手伝いをしました。

清水 功

(ことばのひろば・板橋区)

大原社会教育会館で土曜日に活動しています。初歩の方には1対1、一定レベルの方々にはグループ毎に対応しています。学習者には初歩の人から日本の文学作品を読む人まで、大きな差があります。現在、IT関連の中国人が多いですが、学習者の継続性は低いです。

竹田 仁之介

(田無国際交流サークル・西東京市)

ボランティアスタッフは多いですが、学習者は変動があり、主婦の方が長続きするのに比べ、IT関連の中国人は3ヶ月で終わります。外国人に対する情報提供として、ゴミの情報、図書館情報、くらしの情報等まとめましたが、市の方で配布できる体制ができていません。

矢崎 理恵

(さぼりと21・品川区)

支援ボランティアは日本語教育の経験が必要です。まず難民とその子弟、次に帰国者を優先順に受け入れています。土曜日朝から夕方まで、支援者と学習者がペアで各々の希望による時間選択制を採用しています。電車に乗って来る人が多いです。

武貞 明子

(東久留米にほんごクラス・東久留米市)

活動10年目。月3回火曜の夜、市役所の1階で開催し

ています。市の協力で会場、ロッカーは無料、コピー機をもらいました。学習の特色として、支援者、学習者とも家にあるものを持参し、実物を見せながら説明するという勉強をしています。好評です。

福井 芳野

(小平日本語を楽しむ会・小平市)

3年前「朝の会」をスタート、要望があり「夜の会」も開設、この4月に市の東部に「夜の会」を増設しました。会場利用は一般団体と同じ回数制限がありましたが、趣味のサークルとは違うと市に申し入れ、毎週実施できるようにしてもらいました。

長尾 勝人

(まちだ地域国際交流協会・町田市)

14年を経過しました。行政のサポートが必要です。

大原 徹夫

(まちだ地域国際交流協会・町田市)

問題提起です。活動を行う中でボランティアは無償が当然でしたが、近頃は有償を希望する動きがでてきています。有償について検討することは避けて通れないと思われれます。

梶村 勝利 (前述)

多文化に対応しようとする足立区、動きの鈍い西東京市、「八王子の会」のように市と共同で行事を行う所もあり、行政の対応に違いが見えます。また早稲田でもボランティアに活動費を支払うべき、という意見などが出されています。

第14回 総会報告



日時：4月22日(日) 14:00～15:00 会場：TVAC A会議室

議事：2006年度活動報告・会計報告

会計監査報告 / 2007年度活動計画・予算案

新役員：代表 / 梶村勝利 副代表 / 岩佐幹彦

事務局長 / 林川玲子

会計 / 床呂英一 会計監査 / 竹田仁之介

ニュージーランドの政策に学ぶ 子供の日本語支援

寄稿

中野区国際交流協会専門員
TNVN協力会員

中山 真理子



2月14日に中野区国際交流協会の国際理解講座が中野区商工会館で開催された。テーマに対する関心の深さからか補助椅子を出すほどの盛況で、参加者との熱の入った意見交換も行われた。

日本の3/4の面積、1/30の420万の人口、約1/40の経済規模のニュージーランド(NZ)は76年以来4万人 国連高等弁務官勧告の年間750人以上の「割り当て難民」、200~500人の「通常難民」を受け入れる難民受け入れ大国です。難民はセンターでの6ヵ月の研修後、NZ国民と同等の権利を得、3年後に市民権を得ます。公費でのトレーニングコース終了後に地域社会とのリンクを支援するため、2~4人のチームで地域ボランティアが活動するNPO「難民定住促進機関」があります。

また、国家予算による60時間の養成講座で資格を得た「ホームチューター」のボランティア7,800人が、地域社会に参加させるための英語4技能習得のため、6ヵ月間、週1回、1時間のマンツーマンの家庭訪問 週1回以上、2時間、地域の施設でのグループレッスン 10段階あるリテラシープログラムではバイリンガルとNZネイティブのコンビで週5日2時間の32週コース で支援活動を行います。93年開始時におよそ2億7千万円だった予算は05年にはおよそ8億1千万円となりました。

学校では98年から国が「非英語の背景を持つ生徒」に英語教育を開始、04年から移民は年およそ5万4千円を3年間、難民はおよそ16万2千円を5年間、年額およそ24億円支給さ

れています。対象者は移民が3/5で、NZ生まれの移民、難民の子がその1/3を占めます。親の片方が移民か難民の場合、文章、数字、論理的問題解決思考力は特別の指導がないと追いつかぬとの研究結果からの実践です。

各学校では多文化スタッフ・専門家の雇用が義務づけられ、校長以下全教職員が対象生の背景を知り、異文化理解を推進し、Main Stream生(本流:一般NZ人対象)と最終目標は同じと認識し、潜在能力を発揮させるよう連携します。受け入れ時に文盲かも含め、潜在能力審査をします。「言語センター」はカルチャーショックを和らげ、本流への統合までの緩衝地となるほか、悲劇的背景を持つ難民生が多い学校では、感情を吐露できる場の機能も持ちます。

対象生は3年程度「センター」を「ベース」にし、英語を1、2年重点的に週9~24時間程度と英語の要らぬ本流の科目も開始し、後1~3年は2~6時間、母語、母国の学習歴、年齢、進度に合わせ学期毎に再編成し、必要に応じ卒業まで続け、20歳後は成人のサポートに委ねます。教科の本流移動はセンターで可能と判断した時、学科毎に実力に応じ行いますが、10数項目に互る客観的な評価基準で徹底的に検証され、合流後、6週間経過観察し最終決定します。

NZの社会には皆、異なることを前提に十分な時間と適正な対応により潜在能力を開花させる複合的、社会的、教育的多岐に互るプログラムが存在する一方「潜在能力が言語ハンディによる学力停滞を見極めるのが問題。本流について行けないことを承知で送り、危惧が的中して戻って来る悩みと、それでも送りたいジレンマがある。」との現場の声もあります。日本から見ると理想的に思えるNZの環境でも制限時間と絶対量で、解決不可能かも知れないとい



わたしの国の旧正月

八王子日本語の会（八王子市）
毛もう 薈わいけい 慧けい（中国）

春節（旧正月）は中国ではとても大切な祝日です。旧暦の行事なので今年はそれが2月18日になりました。一口に中国人と言っても漢民族の他に55の少数民族があるので春節を迎える習慣も少しずつ違います。

私の故郷、黒龍江省の春節の迎え方について子供時代を思い出しながら、そして今年の様子なども取り混ぜて記してみたいと思います。

父方の親の家に、それが仮に遠く離れていても大晦日の夕方までにはそこに家族揃って帰ります。総勢30名近くの親戚が集まるのですから食材の準備など祖父母の苦労は大変なものだと思います。午前0時になると、一家団らんで日本の「年越しそば」にあたる水餃子をいただきます。この餃子にはちょっとした仕掛けがあるのです。何百個もある餃子の中の一つに、小さなコインを入れておきます。その餃子に巡り合った人は一年間良いことがあると言われています。子供の頃、私も必死で食べ続けお腹が苦しくなった経験があります。それは今でも笑い話の種です。子供も大人もゲームや花火、爆竹に興じ、寝不足のまま春節の朝を迎えます。

春節を挟んで約一週間の休みの間に、母方の実家、親戚、友達の家などへ移動します。2007年の春節運送旅客数（春運）は延べ20億人だったそうですから、日本の帰省ラッシュが大変とは言っても桁が違いますね。

もう一つ、中国ならではの動員数を誇れるものに大晦日の交歓会（日本でいう紅白歌合戦）があります。24年間続いているこのイベントは北京時間の夜8時から始まり、全国各地の芸能人が延べ2000人以上も登場します。その模様は中国人民ラジオ、中国中央テレビの他、多くの

メディアが海外に生中継しているので、外国に住む中国人もインターネットなどを通じて楽しむことが出来ます。大晦日の朝から子供たちは新しい洋服に着替え、大人も赤い靴下などを履いて春節を迎えます。靴下には縁起の良い言葉（金運、発財など）が刺繍されているものもあります。压岁錢（お年玉）も赤い紙袋に入れますし、今年の干支の飾り物でも豚が赤い服をまとっています。中国人にとって「赤」はラッキーカラーなのです。

数年前に祖父母は他界、父母の兄弟たちもだんだん高齢になってきました。経済の発展に伴って主婦たちの仕事も忙しくなり又生活様式の変化などもあって、私の親族たちの春節の迎え方にも少しずつ変化が見られるようになりました。今年の大晦日、ある親族はレストランを予約して30人ほどで年夜饭のテーブルを囲んだとのこと。親族の結びつきだけは昔も今も、これからも変わらず続けられることでしょう。

私は日本に来て8年になりますが、子供の学校や主人、私の仕事の都合などもあって春節に帰省することはなかなか難しい状況です。今年も、それぞれの事情で帰省できない仲間が集まり、日本で楽しく春節を祝いました。もちろん餃子もいっぱい作って.....。



初心者から上級者まで誰でも受け入れ

世田谷日本語クラス

梶谷 達（世田谷区）

当会は、代表の中村郁子が区内の街角で日本語が分からず買い物で困っていた外国人を見かけ、区内の外国人の日本語学習の役に立ちたいという思いがきっかけで1998年に設立されました。徐々に規模が大きくなり、現在では学習者および学習支援者がそれぞれ60名を超え、区内4ヶ所の公共の施設を利用して7クラスを運営しています。

学習支援の形態はマンツーマン方式で、学習者1人に対して支援者が1人で、日本語を使って行うことを基本にしています。活動期間は、1年を3学期に分け4～

6月、9月～11月、1～3月の9ヶ月間で7～8月と12月は休みます。

初心者から上級者まで日本語を学習したい人は誰でも受け入れ、できる限り学習者の希望（例えば、日本語能力試験の準備、日本の大学入試準備、などにも）に沿えるように指導することを心がけています。学習者が楽しく勉強できるようにすることを基本としていますが、楽しさだけに流されずに、日本語を基礎から中級まで体系的に学習できるようにするために市販のテキストを中心に使用しながら、必要に応じて学習者に適した内容のプリントを準備したりして支援しています。



各学期に1回、電車やバスに乗り東京近郊に出かける野外教室を実施し、日本の文化に触れる機会もつくっています。新しく学習者が入会すると日本語の学習経験、レベル、日本語の目標レベルなどを記録した個人ファイルを作成するとともに、毎回の学習内容を指導記録表に記入して支援者が休んだ場合などでも学習の継続性が保てるようにしています。

最近の学習者の特徴としては、日本人との国際結婚の学習者が多く、学習者全体の約20%を占めていることです。

会員団体紹介

Nice to Meet You

私たちの教室は1993年8月に、当時永住外国人の指紋押捺反対の活動をしていた人たちが、その制度が廃止されたのを機に立ち上げました。場所は都営地下鉄「本所吾妻橋」駅から徒歩5分のところにある「本所賀川記念館」です。

教室は、毎週土曜日午後7：00～9：00までの2時間余で、在住外国人への日本語学習のお手伝いを中心に、必要な情報の提供やお互いの交流を行っています。

教室には当初、東南アジアやアフリカなどから来た学習者たちで溢れんばかりでしたが、いつしか学習者はミャンマー人ばかりのときや、わずか数人のときということもありました。

しかし、最近は中国人を中心に増え続

nice to meet you

屋上で行われる隅田川花火大会の観賞パーティ

本所賀川記念館日本語教室

松本祥子（墨田区）

け、日本語の達者な中国人学習者にスタッフの一員として対応をしてもらっています。母語での説明が分かりやすいと好評です。

当教室の特色は、お休みの少ないこと（年末年始の2回）と、屋上で行われる隅田川花火大会の観賞パーティです。このときは、参加者1人につき、一品料理



の持ち寄りで、元学習者たちも楽しみにしながら、家族や友人を連れてきて旧交を温めています。

教室を運営していくうえでの問題点は、ボランティアの数が足りないことです。今後学習者が増え続け、学習者の満足度が低下することを懸念しています。

しかし、よりよい教室づくりに向けて、学習対応については一方的な押し付けをせず、極力学習者の意向に添うようにと考えながら、また、ボランティア自身の悩みや学習者からの相談事には、スタッフが1人で抱え込まないよう代表を中心にみんなで話し合うようにしています。

学習者の声

今からの5年間の日本の生活が本当に楽しみです

張志栄 / 韓国
 JWCI 国際市民の会 (品川区)



2000年3月、私の家族は主人の転勤で日本に来ました。2年間住んで帰国、それから4年後に再び日本に来ることになって5年の予定で昨年11月に東京に来ました。

韓国人として住むには6年前の日本と今の日本では大差がありました。WORLD CUP とかドラマなどのいろいろな事で韓国と日本の間が4、5年前と違ってすごく近くなったのを実感しました。

初めてに会う方でもドラマの事とか韓国の料理の事とかですぐ話ができるようになるし、特に日本のお母さんたちはキムチ以外のいろんな料理の作り方にすごく関心があり、そのおかげでいい友達ができたともあります。4、5年前の日本にはまったくなかったことでした。

主人の前任者の奥さんであるノさんに紹介をもらって、今IWCで仁村先生と会って日本語がもっと上手になるように頑張っていきます。前の2年間は日本語能力試験をうけるためだけの日本語の勉強だったんですが今度はそれだけでなくすぐ隣にある国ながらもおおきく違う生活や文化をもっている日本に関して詳しく知りたいし、もっと自然な日本語を喋りたいです。

それと、出来るなら日本にいるうちに大阪、京都など家族と一緒に旅行したいです。

特にいい友達がたくさんできたらすごくいい思い出になると思います。

以前住んだ時にも日本の生活が楽しかったけれど今からの5年間の日本の生活が本当に楽しみです。

ボランティアの声

井上由美子
 日野国際友好クラブ (日野市)

日本語ボランティアって

日本語教室ができた当初 (1992年) は「生活に必要な日本語学習の支援」が仕事でした。実際、日系の方が多かったようです。

そして、徐々に中国、韓国の方が増えてきました。それによって、「生活日本語」から、「検定試験対策」「大学院進学対策」までも求められるようになりました。しかし、ここまできると本来の趣旨から離れるのではないかと、という意見もでてきて、一時期はそのような人たちの希望に対してはお断りしていました。やはり、ある程度の線引きは必要だということでした。

しかし、今現在、その考えは薄れてきて「日本語能力検定試験」の勉強を見ているクラスもあります。

その一方で、知識はあるけれども職場での適切なコミュニケーションはとれない学習者がいます。

学習者によって求められるものは異なりますが、ここまでは日本語ボランティアの

範囲とも思われます。

しかし、「学校での問題」「病院への付き添い、通訳」「警察」これらは、一体「日本語ボランティアの仕事」なのでしょうか。

ある人は学習者の頼みごとに振り回されてしまっています。付き添い・通訳まではこなしましたが、さすがに警察に行くべき内容に関しては「NO」といわざるをえませんでした。

ボランティア間での話し合いの結果、「自分ひとりで抱えないで、公的機関の手にゆだねる。」ということになりました。

様々な学習者がやってくる日本語教室、ある程度の線引きは必要なのだろうと思います。ただ、その線をどこに引くのが難しいのですが。





「ボランティア日本語教室ガイドTOKYO 2007」 発行へのご協力を

「ボランティア日本語教室一覧2004 東京」を発行してから3年が経過しました。幸い東京都内の日本語ボランティア教室へ参加を希望される方々に向けて幅広く活用を載っています。

この間、活動内容の追加・変更や新しく活動を開始した団体が有ります。

この部分はホームページでは更新を行っていますが冊子へ訂正が出来ていません。こ

の度東京ボランティア・市民活動センターの助成金「ゆめ基金」を受けて表記の冊子を作成します。

掲載団体の充実と情報の手引きを追加します。つきましては該当する団体にアンケート等のご協力をお願いします。

また新しく掲載を希望する団体を募集しますのでTNVN事務局へご連絡下さい。

発行は2007年度中を予定しています。

ワークショップ開催について

【問題解決型ワークショップ・シリーズ 第4回】

ボランティアは学校とどのように連携できるか？

先生方は日本語を母語としない子どもたちとどのように係わっているか。

第3回ワークショップでは、子ども支援の経験が長く、また深く研究している団体の具体的な活動報告を聞きました。今回は、小中学校の日本語学級で指導している先生方の生の声をお聞きし、地域の日本語ボランティアにできることは何か、話し合

いたいと思います。

日 時：2007年6月24日（日）

13:00～16:00

場 所：しんじゅく多文化共生プラザ
詳細はチラシを参照下さい

ニュースレターの記事をお待ちしています

ニュースレターは3ヶ月毎に発行しています。団体・個人にかかわらず、日本語学習支援・日本語ボランティア活動に関する意見・紹介・情報などの記事を是非お寄せ下さい。掲載記事についてのご意見・希望も歓迎します。

TNVN NL編集担当宛にお送り下さい。

TNVN スタッフ募集！！

TNVNの事務局スタッフ・ニュースレター編集員となって現スタッフと一緒にボランティアでご協力いただけませんか。TNVN事務局までご一報をお待ちしています。

TNVNへの入会をお待ちしています

詳細はTNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。（送料90円切手同封）

Column

❖ 潜り込めば、潜り込むほど新しいものが見えてくる…

NHKテレビのローカルニュースだとも思うけれど、どこかの海に惚れ込んでいるダイバーが喋っていた言葉。「～込む」という言葉の使われ方は

中に入れる・入る（投げ込む、潜り込む）

徹底的にやる（使い込んだ道具）

という意味の二通りだとも思う。

潜り込むは の意味で使われる言葉のはず

だけど、それをこのダイバーは のみっちりやるという意味に使っているのか。確かにマニアやオタク族は何か打ち込んで凝り、徹底的にやるから、そのさまを表現するに相応しい言葉かも知れないけれど。

小生などはさしあたり山に登り込んで日本語を教え込んでいるところかな。

（投稿者：日高）

TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア ネットワーク事務局の活動

日時：毎週金曜日

第1、第3、第5 金曜日 / 午後2時～4時
第2、第4 金曜日 / 午後2時～6時

場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 - 出口B2b)飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。

ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

TEL：03-3235-1171

（呼出：金曜日活動時間帯のみ）

FAX：03-3235-0050

E-mail：webadmin@tnvn.jp

URL：http://www.tnvn.jp/

郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

会員数（2007年4月22日現在）

正会員：77団体 協力会員：38名

賛助会員：4団体

編集 / 岩佐 幹彦、大木 千冬、
岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利
床呂 英一、林川 玲子、福井 芳野
レイアウト / 鶴田 環恵